

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が5例(男性1例(40歳代1例), 女性4例(20歳代1例, 40歳代1例, 70歳代1例, 80歳代1例))あり, 本年の累積報告数は21,149例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が2例(70歳代男性及び90歳代女性)あり, 本年の累積報告数は18例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が3例(20歳代男性1例及び40歳代女性2例)(第46週追加報告分含む)ありました。いずれも感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は66例となりました。
- ・ **インフルエンザ**は, 市内69の定点医療機関からの報告はありませんでした。全国でもほとんど無いと言える状況(定点医療機関数約5,000から30例の報告)で, 現在のところ流行の兆候はありません。
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
- ・ **手足口病**の定点当たり報告数は, 1.98(85例)で5年平均値を上回っているものの, 流行と言える状況ではありません。全国では1.22でした。都道府県別では, 香川県(4.93)や鹿児島県(6.44)など, 九州・四国を中心に警報状態が継続している地域もあります。
- ・ **ヘルパンギーナ**の定点当たり報告数は0.51(22例)で前週0.23(10例)から増加したものの, 第41週のピーク(2.12)からおおむね減少傾向が続いています。全国でも同様に, ピークの第41週及び第42週(ともに0.71)から連続して減少しており, 今週は0.37でした。全国的には, 群馬, 富山, 石川各県で2を超えています, 大きな流行となっている都道府県はみられません。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

京都市における感染性胃腸炎の定点当たり報告数は7.33(315例)となり, 前週の3.56(153例)から急増して市過去5年平均を上回りました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 1例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 227例(肺結核 78例, その他結核 74例, 潜在性結核感染者 75例)うち喀痰塗抹陽性 38例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 5例**【1月以降の累積報告数21,149例】
- ・ 五類: **侵襲性肺炎球菌感染症 2例**【1月以降の累積報告数 18例】
- ・ 五類: **梅毒 3例**【1月以降の累積報告数 66例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

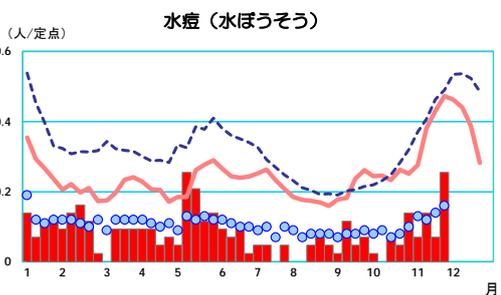
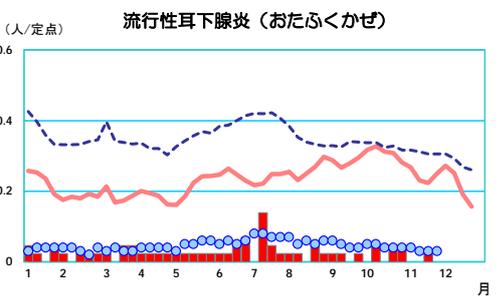
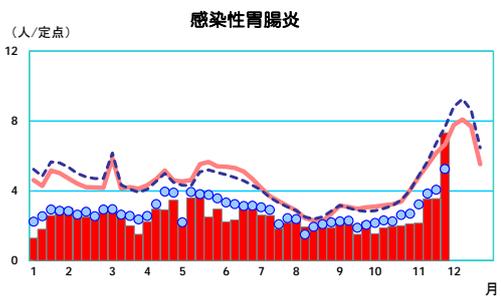
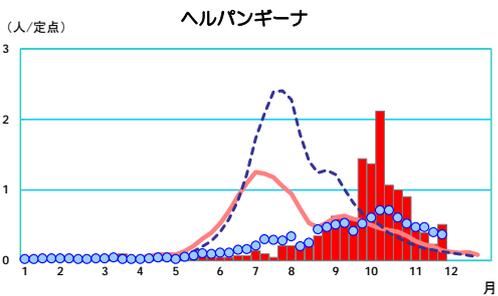
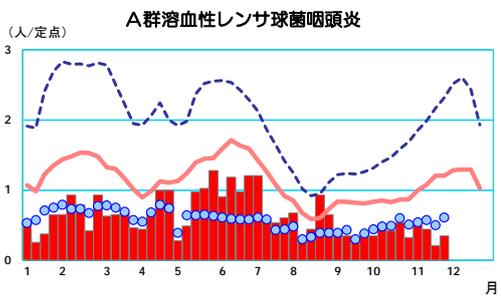
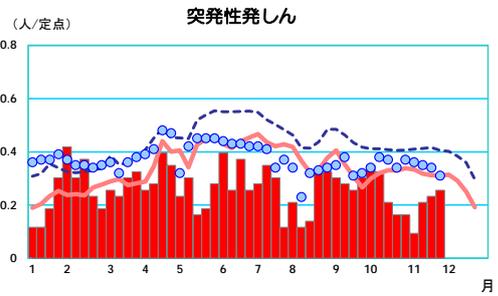
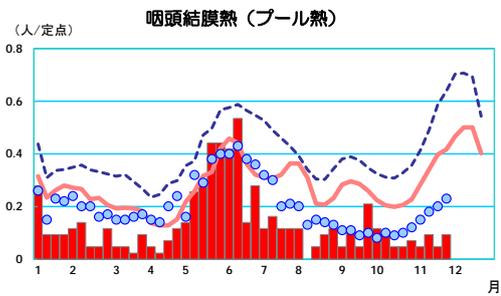
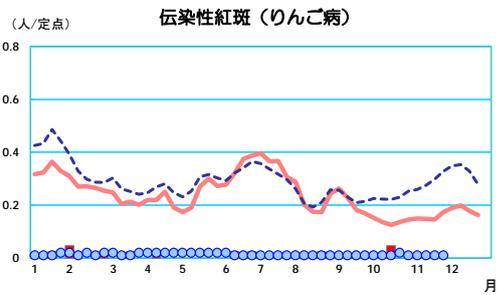
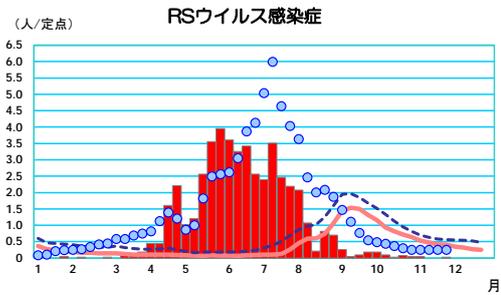
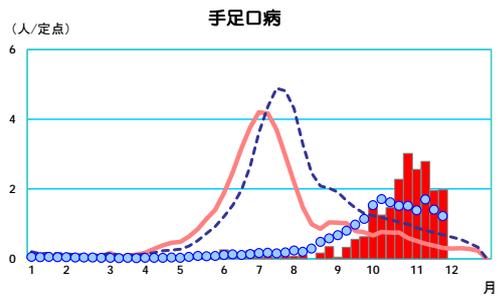
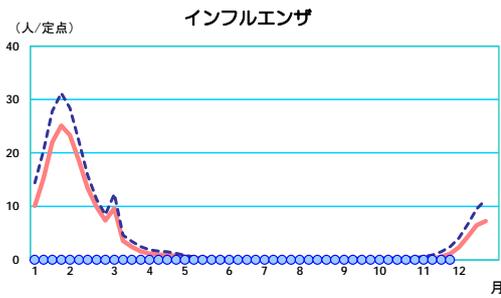
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.33	315
	② 手足口病	1.98	85
	③ ヘルパンギーナ	0.51	22
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.35	15
	⑤ 水痘	0.26	11
	⑤ 突発性発しん	0.26	11
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

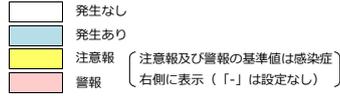
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年12月8日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

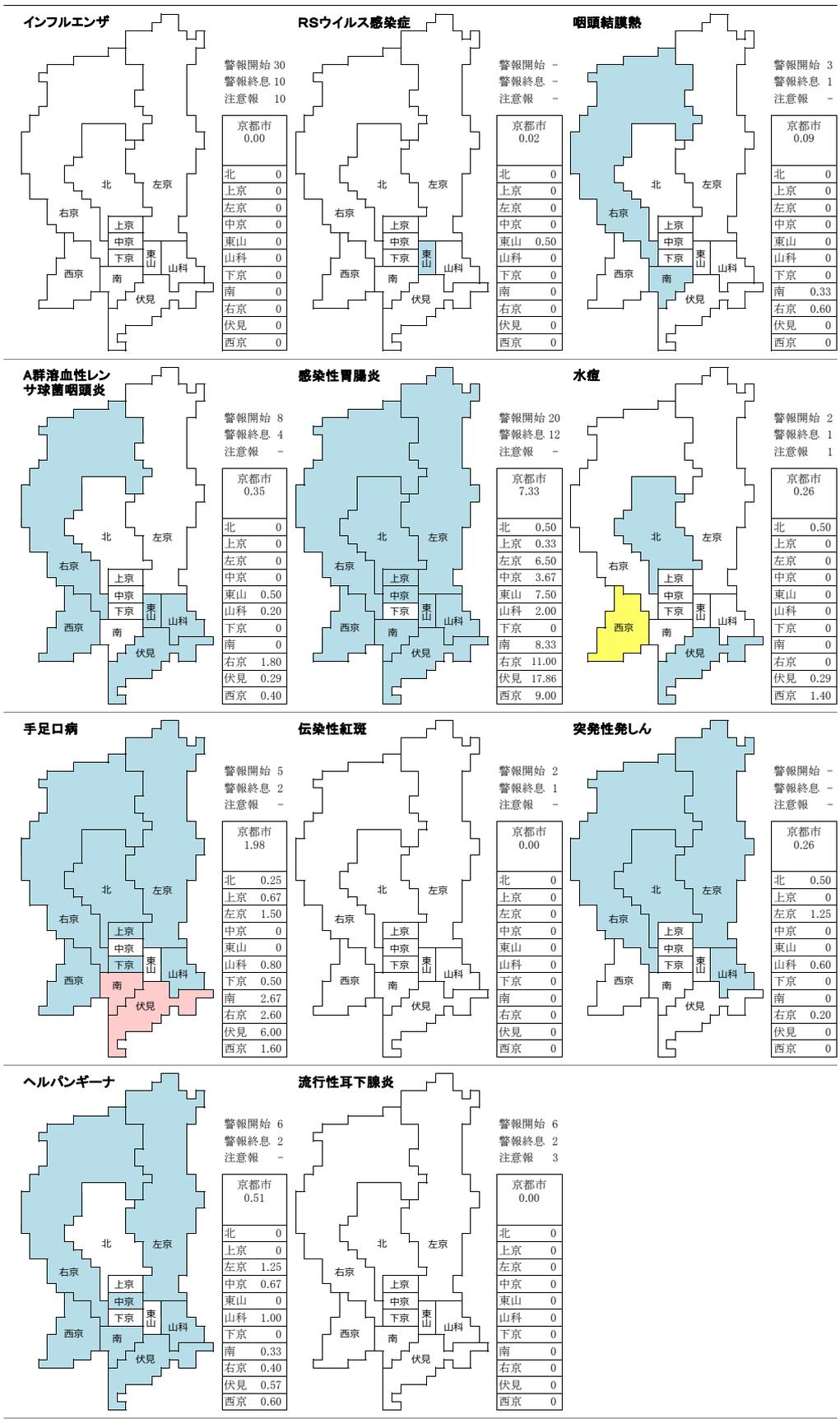
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年第48週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や
 規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第48週(11月29日～12月5日)トピックス: <感染性胃腸炎>

京都市における感染性胃腸炎の定点当たり報告数は7.33(315例)となり、前週の3.56(153例)から急増して市過去5年平均を上回りました。全国でも今週5.24で前週の4.06から増加しました。京都市及び全国の過去5年平均の推移を見ると、例年11月頃から報告数が増加し、12月にピークを迎えています(図1)。本疾患は昨年新型コロナウイルス感染症の流行開始以降、感染対策の徹底などにより報告数の少ない状況が続いていましたが、今シーズンは年末にかけて一昨年までのような流行が予想されるため引き続き注意が必要です。

都道府県別にみても42都道府県で前週の報告数を上回っており、全国的に増加傾向にあります。さらにこのうち、定点当たり報告数が今週の過去5年平均値(全国)7.68を上回ったのは報告数の高い順に埼玉県、長崎県、福岡県、大阪府、佐賀県、熊本県の6県で、九州地方で高い傾向となっています(図2)。近畿地方でも大阪府(8.10)、兵庫県(7.45)、京都府(6.70)、奈良県(6.06)と報告数が増加しています。

なお、本市の今シーズン(第48週まで)の年齢階級別割合は、過去5年平均(全国・京都市)と比較して1、2歳の割合が増加し、20歳以上の割合が少なくなっています(図3)。保育園や幼稚園などの集団施設では特に予防を強化してください。

本疾患は、細菌・ウイルス・寄生虫などの多様な病原体を原因とする感染症です。このうち冬季の報告数の増加は、ノロウイルスが主な原因です。ノロウイルスの潜伏期間は概ね24～48時間で、感染経路は接触及び経口感染(食品、糞口)です。主症状は吐き気、おう吐、下痢、腹痛等であり、多くは軽症に経過する疾患ですが乳幼児や高齢者等では脱水症状を起こしたり、おう吐物が誤って気道に入り肺炎を起こすことがあるので注意が必要です。

ノロウイルスに対してはワクチンや特効薬がないため、治療は対症療法のみとなります。予防方法は、流水と石けんによる手洗い、食品の十分な加熱(中心温度85～90度以上、90秒以上)、おう吐物やおむつの適切な処理です。回復しても便には通常でも1週間程度、長いときには1箇月程度ウイルスが排出されるため、使用後の手洗いをしっかり行うことが重要です。また、ふん便やおう吐物の消毒には次亜塩素酸ナトリウム消毒液を使用しましょう。ノロウイルスはアルコールに対する抵抗力が強いのでアルコール消毒はほとんど効果がありません。

京都市では、ノロウイルス(症状や消毒方法等)及び手洗いについてリーフレットでも詳細に紹介しています。下記のURLを御参照ください。

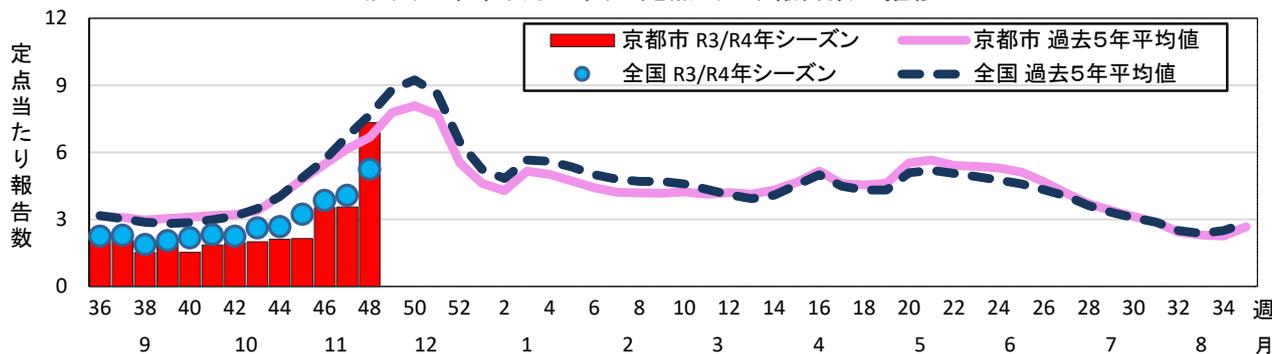
○「京都市こどもの感染症リーフレット 感染性胃腸炎(ノロウイルス)」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/kansenseiityouen.pdf>

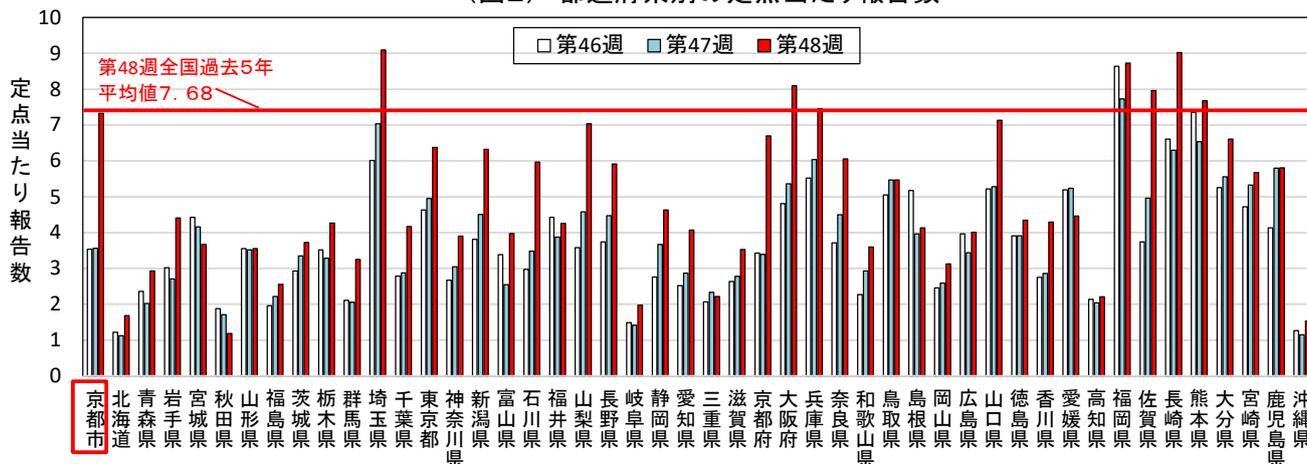
○「京都市こどもの感染症リーフレット 手あらいの方法」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf>

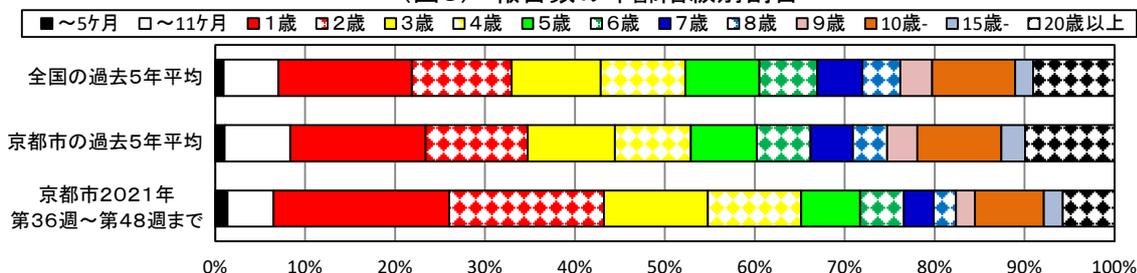
(図1) 本市及び全国の定点当たり報告数の推移



(図2) 都道府県別の定点当たり報告数



(図3) 報告数の年齢階級別割合



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第48週

疾病,行政区別報告数

2021年11月29日～2021年12月5日

データ入手日:2021年12月8日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	-	-	-	-	2	2	1	-	2	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	26	-	6	-	5	5	-	-	-					
中京	-	-	-	-	11	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1	-	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	-	-	-	1	10	-	4	-	3	5	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	1	-	25	-	8	-	-	1	-	-	-					
右京	-	-	3	9	55	-	13	-	1	2	-	-	-					
伏見	-	-	-	2	125	2	42	-	-	4	-	-	-					
西京	-	-	-	2	45	7	8	-	-	3	-	-	-					
京都市計	-	1	4	15	315	11	85	-	11	22	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	-	-	-	-	0.50	0.50	0.25	-	0.50	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	0.33	-	0.67	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	6.50	-	1.50	-	1.25	1.25	-	-	-					
中京	-	-	-	-	3.67	-	-	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	0.50	-	0.50	7.50	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	-	-	-	0.20	2.00	-	0.80	-	0.60	1.00	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	0.33	-	8.33	-	2.67	-	-	0.33	-	-	-					
右京	-	-	0.60	1.80	11.00	-	2.60	-	0.20	0.40	-	-	-					
伏見	-	-	-	0.29	17.86	0.29	6.00	-	-	0.57	-	-	-					
西京	-	-	-	0.40	9.00	1.40	1.60	-	-	0.60	-	-	-					
京都市計	-	0.02	0.09	0.35	7.33	0.26	1.98	-	0.26	0.51	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第48週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年11月29日～2021年12月5日

データ入手日:2021年12月8日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		4	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		15	-	-	-	1	3	2	-	3	3	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		315	7	13	65	65	39	31	30	21	4	3	5	14	3	15	-	-	-	-	-	-
水痘		11	-	-	1	1	-	1	1	2	3	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		85	-	6	43	25	7	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		11	-	5	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		22	-	2	8	8	1	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.09	-	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.35	-	-	-	0.02	0.07	0.05	-	0.07	0.07	-	0.02	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		7.33	0.16	0.30	1.51	1.51	0.91	0.72	0.70	0.49	0.09	0.07	0.12	0.33	0.07	0.35	-	-	-	-	-	-
水痘		0.26	-	-	0.02	0.02	-	0.02	0.02	0.05	0.07	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		1.98	-	0.14	1.00	0.58	0.16	0.05	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.26	-	0.12	0.07	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.51	-	0.05	0.19	0.19	0.02	0.02	-	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第48週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年12月8日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	1	-	-	-	-
RSウイルス感染症	3	2	2	-	-	1
咽頭結膜熱	2	3	2	4	2	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	14	21	19	9	15
感染性胃腸炎	86	91	92	152	153	315
水痘	2	6	3	6	3	11
手足口病	98	130	110	120	84	85
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	7	7	4	9	10	11
ヘルパンギーナ	43	39	18	17	10	22
流行性耳下腺炎	2	2	-	-	1	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	1	-	-	1	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	269	296	252	327	273	464

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	0.01	-	-	-	-
RSウイルス感染症	0.07	0.05	0.05	-	-	0.02
咽頭結膜熱	0.05	0.07	0.05	0.09	0.05	0.09
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.33	0.49	0.44	0.21	0.35
感染性胃腸炎	2.00	2.12	2.14	3.53	3.56	7.33
水痘	0.05	0.14	0.07	0.14	0.07	0.26
手足口病	2.28	3.02	2.56	2.79	1.95	1.98
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	0.16	0.16	0.09	0.21	0.23	0.26
ヘルパンギーナ	1.00	0.91	0.42	0.40	0.23	0.51
流行性耳下腺炎	0.05	0.05	-	-	0.02	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.30	0.10	-	-	0.10	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	6.49	6.95	5.86	7.60	6.43	10.79

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。